

令和 6 年度

入学者選抜学力試験問題



国 語 (前期)

(注 意)

1. 監督者の指示があるまで、この冊子を開かないこと。
2. この冊子の問題は 14 ページからなる。落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば監督者に申し出て、問題冊子の交換を受けること。
3. 監督者の指示に従って、4 枚の解答用紙に受験番号および氏名を必ず記入すること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された場所に記入すること。
5. 解答に字数制限のある場合は、句読点を字数に数えること。
6. 解答は、内容とともに、用語、表記、構文にも注意して書くこと。
7. この冊子は持ち帰ること。

著作権の関係で公開できません。

1～8ページ

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

著作権の関係で公開できません。

(今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』を一部改変)

問一 二重傍線部(ア)～(オ)のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部(1)「周りの情報の統計的な分布を抽出する能力」における、人間と動物の違いは何か、本文の内容に則して八〇字以内で説明しなさい。

問三 傍線部(2)「ブートストラッピング・サイクル」とは何か、八〇字以内でまとめなさい。

問四 傍線部(3)「アブダクション推論は、つねに正しい答えにたどり着けるわけではない」とはどういうことか、具体例を挙げて説明しなさい。本文中にある具体例を用いてもかまわない。

問五 傍線部④「ピッチャー、キャッチャーを踏まえ、バッターのことを「バッチャー」と言う」ことが、なぜ帰納推論による誤りであるのか、一〇字以内で説明しなさい。

問六 幼児の言語使用の場面を想像して、アブダクション推論による誤りの例を新たに作りなさい。また、その例がなぜアブダクション推論による誤りに該当するのかを説明しなさい。

二 次に挙げる【甲】・【乙】は本居宣長『うひ山ぶみ』の一節である。文章を読んであとの問いに答えなさい。

【甲】 そもそも歌は、思ふ心をいひのぶるわざといふうち、よのつねの言とはかはりて、必ず詞にあやをなして、しらべをうるはしくととのふる道なり。これ、神代のはじめより然り。詞のしらべにかかはらず、ただ思ふままにいひ出づるは、つねの詞にして、歌といふものにはあらず。さて、その詞のあやにつきて、よき歌とあしき歌とのけぢめあるを、上代の人は、ただ一わたり、歌の定まりのしらべをととのへてよめるのみにして、後世の人のやうに、思ひめぐらしてよくよまんとかまへ、たくみてよめることはなかりし也。然れども、その出来たるうへにては、おのづからよく出来たるとよからざるとがありて、その中にすぐれてよく出来たる歌は、世間にもうたひつたへて、後世までものこりて、二典に載れる歌どもなど、是也。「中略」されば、やや世くだりては、かまへてよき歌をよまんとともむるやうになりぬるも、かならず然らではえあらぬ、おのづからの勢ひにて、万葉に載れるころの歌にいたりては、みなかまへてよくよまんと求めたる物にこそあれ。おのづから出来たるは、いとすくなかるべし。万葉の歌すでに然るうへは、まして後世、今の世には、よくよまんとかまふること、何かはとがむべき。これおのづからの勢ひなれば、古風の歌をよまん人も、随分に詞をえらびて、うるはしくよろしくよむべき也。

【乙】 今の世、古風をよむともがらのよみ出づる歌を見るに、万葉の中にもことに耳なれぬあやしき詞をえり出でつかひて、ひたすらにふるめかして、人の耳をおどろかさんとかまふるは、いといとよろしからぬこと也。歌も文も、しひてふるくせんとして求め過ぎたるは、かへすがへすうるさく、見ぐるしきものぞかし。《ア》万葉の中にも、ただやすらかにすがたよき歌を手本として、詞もあやしきをば好むまじき也。《イ》さて又、歌も文も、同じ古風の中にも段々有りて、いたく古きとさもあらぬとあれば、詞もつづけざまも、大抵その全体の程に必ずべきことなるに、今の人は、全体のほどに必ぜぬ詞をつかふこと多くして、一首一篇の内にも、いたくふるき詞づかひのあるかと見れば、又むげに近き世の詞もまじりなどし

て、其体混雑せり。《ウ》すべて古風家の歌は、後世家のあまり法度にかかはり過ぐるをにくむあまりに、ただ法度にかかはらぬを心高くよき事として、そのよみかた、甚だみだりなり。《エ》^B万葉のころとても、法度といふことこそなけれ、おのづから定まれる則は有りて、みだりにはあらざりしを、法度にかかはらぬを古と心得るは、大きにひがこと也。《オ》既に今の世にして古をまねてよむからは、古のさだまりにかなはぬ事有りては、古風といふ物にはあらず。《カ》今の人は、口には「いにしへ、いにしへ」とただけしくよばはりながら、古の定まりをえわきまへざるゆゑに、古は定まれることはなかりし物と思ふ也。《キ》万葉風をよむことはちかきほど始まりたることにて、いまだその法度を示したる書などもなき故に、^Cとかく古風家の歌は、みだりなることおほきぞかし。

(『うひ山ぶみ』による)

注 ① しらへ——和歌の韻律や形式。

② 二典——ここでは『古事記』と『日本書紀』を指す。

問一 二重傍線部(a)・(c)について、それぞれ文法的に説明しなさい。

問二 傍線部A・Bを現代語訳しなさい。

問三 「乙」を四段落に分ける場合、どこで区切るのが適切か、《ア》から《キ》のうち、最も適切なものを三つ選びなさい。

問四 傍線部Cについて、次のI・IIの問いに答えなさい。

I 「古風家」と同様の意で用いられている語句を【甲】の文中から抜き出しなさい。

II 筆者は「古風家」がどのように和歌を詠むべきだと主張しているのか、文章全体をふまえ一二〇字以内で説明しなさい。

三 次に挙げるのは、唐の詩人白居易が、左遷されて通州(現四川省)にいた友人元稹からの便りに答えて詠んだ律詩である。前半の五行は、その序文も兼ねた詩題である。この時、白居易も江州(現江西省)に左遷されていた。これを読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、送り仮名を省いたところがある。

微^{注①}之^{注②}到^{注③}通州^{注④}一日、授^{注⑤}館^{注⑥}未^{注⑦}安、見^{注⑧}塵^{注⑨}壁^{注⑩}間、有^{注⑪}数^{注⑫}行^{注⑬}字。読^{注⑭}之^{注⑮}即^{注⑯}僕^{注⑰}旧^{注⑱}

詩^{注⑲}。其^{注⑳}落^{注㉑}句^{注㉒}云、一^{注㉓}淥^{注㉔}水^{注㉕}紅^{注㉖}蓮^{注㉗}一^{注㉘}朶^{注㉙}開、千^{注㉚}花^{注㉛}百^{注㉜}草^{注㉝}無^{注㉞}顔^{注㉟}色。一^{注㊱}然^{注㊲}不^{注㊳}知^{注㊴}題^{注㊵}

者^{注㊶}何^{注㊷}人^{注㊸}也。微^{注㊹}之^{注㊺}吟^{注㊻}歎^{注㊼}不^{注㊽}足、因^{注㊾}綴^{注㊿}一^{注㋀}章^{注㋁}、兼^{注㋂}録^{注㋃}僕^{注㋄}詩^{注㋅}本^{注㋆}同^{注㋇}寄^{注㋈}。省^{注㋉}其^{注㋊}

詩^{注㋋}。乃^{注㋌}是^{注㋍}十^{注㋎}五^{注㋏}年^{注㋐}前、初^{注㋑}及^{注㋒}第^{注㋓}時、贈^{注㋔}長^{注㋕}安^{注㋖}妓^{注㋗}人^{注㋘}阿^{注㋙}軟^{注㋚}絶^{注㋛}句^{注㋜}。緬^{注㋝}思^{注㋞}往^{注㋟}事^{注㋠}、

杳^{注㋡}若^{注㋢}夢^{注㋣}中^{注㋤}。懷^{注㋥}旧^{注㋦}感^{注㋧}今^{注㋨}、因^{注㋩}酬^{注㋪}長^{注㋫}句^{注㋬}。

十^{注㋭}五^{注㋮}年^{注㋯}前^{注㋰}似^{注㋱}夢^{注㋲}遊^{注㋳}。曾^{注㋴}將^{注㋵}詩^{注㋶}句^{注㋷}一^{注㋸}結^{注㋹}風^{注㋺}流^{注㋻}。

偶^{注㋼}助^{注㋽}笑^{注㋾}歌^{注㋿}嘲^{注㍀}阿^{注㍁}軟^{注㍂}。可^{注㍃}知^{注㍄}伝^{注㍅}誦^{注㍆}到^{注㍇}通^{注㍈}州^{注㍉}。

昔^{注㍊}教^{注㍋}紅^{注㍌}袖^{注㍍}佳^{注㍎}人^{注㍏}唱^{注㍐}。今^{注㍑}遣^{注㍒}青^{注㍓}衫^{注㍔}司^{注㍕}馬^{注㍖}愁^{注㍗}。

惆^{注㍘}悵^{注㍙}又^{注㍚}聞^{注㍛}題^{注㍜}處^{注㍝}所^{注㍞}。雨^{注㍟}淋^{注㍠}江^{注㍡}館^{注㍢}破^{注㍣}牆^{注㍤}頭^{注㍥}。

(『白氏文集』による)

注

- ① 微之——元稹あざなの字。
- ② 授館未安——すまいをあてがわれてまだ落ち着いていない。
- ③ 僕旧詩——白居易が十五年前に詠んだ詩。
- ④ 落句——結びの句。
- ⑤ 渌水——清らかな水。
- ⑥ 一朵——一輪。
- ⑦ 題——詩を書き付ける。
- ⑧ 一章——元稹の詩。白居易の「旧詩」を目にした感慨を詠んだ。
- ⑨ 十五年前——白居易が科挙に合格した時をいう。
- ⑩ 妓人阿軟——「妓人」は妓女、「阿軟」はその名。
- ⑪ 杳若夢中——はるか遠く夢の中の出来事のようにだ。
- ⑫ 結風流——風流ぶる。風流を気取る。
- ⑬ 助笑歌——宴席での座興とする。
- ⑭ 青衫司馬——「青衫せいさん」は青い上着。「司馬」は官職名。白居易自身をいう。
- ⑮ 惆悵——悲しむさま。
- ⑯ 江館破牆頭——川べりの官舎の壊れた塀のあたり。

- 問一 詩の押韻の箇所を全て挙げなさい。
- 問二 二重傍線部(a)と同じものを指す語を、詩句の中から四文字で抜き出しなさい。
- 問三 波線部(ア)にこめられた作者の気持ちを、五〇字以内で説明しなさい。
- 問四 波線部(イ)を訓読しなさい。現代仮名遣いでも良い。
- 問五 波線部(ウ)にこめられた気持ちについて、全体の内容をふまえて八〇字程度で説明しなさい。